

図書館だより

第8号 2025/1/28

石巻工業高等学校 図書館



早いもので2025年も1ヶ月が過ぎようとしています。3年生の皆さんは残り少ない高校生活を楽しんでください。1、2年生の皆さんもそれぞれの学年のまとめの時期です。体調に気をつけて頑張りましょう！

返却し忘れていた本はありませんか？



図書館では本の点検作業をしています。貸出期限の過ぎている本は、速やかに図書館へ返却をお願いします。もし手続きをしないまま本を借り出している場合があります。そちらも返却をお願いします。特に3年生は今月中に忘れずに返却してくださいね。

※本は、廊下の返却ボックスに返すこともできます。



3年生返却期限：1月31日（金）

※卒業前に必ず返却してね！

クラス別貸出冊数（2025. 1. 22現在）

今年度の多読賞は1月31日（金）までに貸出した本の冊数で決定します。入賞者には賞状があります。

M1	E1	C1	IC1	A1	M2	E2	C2	IC2	A2	M3	E3	C3	IC3	A3	(冊)
6	10	17	26	11	95	11	31	76	6	2	69	1	2	13	

新刊図書ピックアップ



『あのときこうしなければ……本当に危ない闇バイトの話』

廣末 登、芳賀恒人 監修（金の星社 刊）

アルバイトと称して犯罪に関連する人を募集する「闇バイト」が社会問題になっています。本人が意図しなくても、関わると加害者になってしまう闇バイト。本書では実際の事件をもとにした手口が、マンガで紹介されています。

闇バイトから身を守るには、さまざまな事例を知ることで危険を察知し、「巻き込まれない」という意識を養うことが大切です。巻末には、困ったときの相談機関も掲載されています。

第172回
芥川賞・直木賞受賞作
☆決定☆

1月15日（水）に選考会が行われ、第172回芥川賞・直木賞の受賞作が決定しました！
図書館にはほかの候補作の作品もありますので、ぜひ手に取ってみてください。

2月の開館カレンダー

月	火	水	木	金
2/3	4	5	6	7
○	○	○	○	○
10	11	12	13	14
○	祝日	○ <small>放課後閉館</small>	○	○
17	18	19	20	21
○ <small>放課後閉館</small>	○	○ <small>午後閉館</small>	○	○
24	25	26	27	28
振替休日	閉館日	○	○	○

☆芥川賞受賞☆

『D'TOPIA
(デートピア)』

著者：安堂ホセ
出版社：河出書房新社

☆芥川賞受賞☆

『ゲ-テはすべて
を言った』

著者：鈴木結生
出版社：朝日新聞出版

☆直木賞受賞☆

『藍を継ぐ海』

著者：伊与原新
出版社：新潮社

～「全校読書会」～

令和6年11月21日（木）に実施した「全校読書会」では、クラスごとに同じ集団読書用テキストを読み、意見を出し合いました。今回は各クラスから出された意見や感想を紹介します。

1学年



M1 『彼女のアリア』 森 絵都 著

・「ぼく」が藤谷をぎこちなく抱きしめたところがとても心に残りました。「ぼく」は藤谷のことが好きということがよく分かりました。二人で一緒に悩みを解決していくところが印象的でした。

E1 『千代に八千代に』 重松 清 著

・友だちのあり方にもさまざまな形があるということを理解することができました。友だちとは何かを、千代さん、八千代さんと重ね合わせ、自分はどうしたいのかを考えました。

C1 『夕日へ続く道』 石田 衣良 著

・源ジイは雄吾を思いやり、とても優しい人だと感じました。源ジイの優しい性格にひかれて手伝うことになった雄吾は、親切な心の大切さを学んだと思います。源ジイを見習い人に優しくできる大人になりたいです。

IC1 『狐フェスティバル』 瀬尾 まいこ 著

・「狐がえり」を誰にも見られずに踊らないといけないということが心に残りました。地域や県によって風習が違うので、それを引っ越してきた人々にも伝えていくことは大変なのだと感じました。

A1 『喝采は「アイ・ラブ・ユー」』 黒柳 徹子 著

・黒柳徹子さんへの信頼の強さが心に残りました。手話でたった一言でも三十人以上の方が動かなければなりません。狂言を大成功させたのはたくさんの方の支えと協力があってからだと思います。自分からの積極的な参加が大切だと感じました。

2学年



M2 『練習球』 あさの あつこ 著

・肩を壊してしまった元エースの真郷と現エースの律が、心をひとつにして甲子園を目指していく姿に感動しました。律がポロポロになったボールを甲子園に連れて行くと言っていたシーンが心に残りました。

E2 『ガイド』 小川 洋子 著

・「僕」がお母さんのことを心の底から尊敬していて大好きなんだということが伝わりました。お母さんのために自分でお金を稼いで旗を作ってあげるところが感動的でした。その行動力と何事もあきらめない気持ちが印象に残りました。

C2 『ムーンライト・シャドウ』 吉本 ばなな 著

・さつきは最初は絶望のどん底にたたき落とされたような心情だったが、うらやかと会って話をしていくうちに気持ちが落ち着き、心から笑えるようになったと感じた。登場人物の心情、表情、しぐさなどが想像しやすく、心が引き込まれる作品だった。

IC2 『鼻』 芥川 龍之介 著

・内供が本当に欲しかったものは「短い鼻」ではなく、「周囲の目を気にしない自分」だったのかなと思いました。自分自身のとらえ方によって、自尊心や劣等感は変わると感じました。

A2 『夏の階段』 梨屋 アリエ 著

・玉木的心情の変化が面白かったです。成績でしか世の中を見ていない感じがありましたが、おばあさんの家の手伝いを経て、広い目で世の中を見られるようになって良かったと感じました。

3学年



M3 『赤毛連盟』 アーサー・コナン Doyle 著 鈴木 幸夫 訳

・7ページ5行目の所から始まるシャーロック・ホームズの推理と、その推理までにたどり着く間の考えや頭の良さなどに驚かされました。自分だったら「赤毛連盟」の入会に応募はしません。自分の身が危ないし、命の方が大切だからです。

E3 『高瀬舟』 森 鷗外 著

・最後に庄兵衛が「これがはたして弟殺しというものか」と疑問を感じた場面が心に残りました。人が生きているというのは、自分の尊厳を守れていることだと考えます。現代でも通じる内容に驚きました。

C3 『最後の一葉』 O・ヘンリー 著 大久保 康雄 訳

・ベールマンさんが自分の命を引き替えに、絶対に落ちない葉を描いたところに感動しました。生きるということが当たり前だと思う人が多い中で、必死に生きている人もいますので、自分の命を大切にしていきたいと思いました。

IC3 『伊豆の踊り子』 川端 康成 著

・わたしと踊り子の薫は同年代のような兄妹のような感じに見えました。また船で迎えにくるのか、それともわたしが訪ねるのか。それも青春のひとつではないだろうかと感じました。自分にとっては今、高校生活を送っている毎日が青春だと思います。

A3 『ベラルーシの透明な夏』 佐藤 しのぶ 著

・チェルノブイリの原発事故で、11年たった後でも被曝の後遺症で苦しんでいる人たちがいるというところでは心が痛くなりました。音楽は人の気持ちを落ち着かせ、精神を安定させられると考えます。音楽は人を結びつけ、軌跡を起こす大きな力があると思いました。